

私にとって中東は欧州の文化・眼鏡を透しての理解でした。これを打ち砕いたのはJICAからの直接派遣の結果です。其れでも理解を深めるにはRobert Irwinの書Islamic-Artを読む必要がありました。

個人的暮らし向きと繋がる“縁の果て”とは何処か。それは“支那”と云う大きな文化圏に阻まれつつも、理解したつもりでいる、中央アジアではないでしょうか。

全盲の歌姫グルムさんの応援で、キルギス旅行の機会が訪れました。

天山山脈群の西側に包含される彼の地は、気流より地形が気候を支配しています。奔流する水の豊かな一方、山脈一つ隔てて激しい乾燥地をもたらし、土質・礫層の違いから、その場その場で山の安息角が違ふ姿に釘づけの造山活動の激しい地域でした。イシクク湖岸に“カラコル市”があります。軽井沢の様な明媚な風景、べたべたの牛糞が路地いっばいに広がり、野犬に追い立てられる穏やかな都市です。長野とでも姉妹都市を結び、豊かな果樹を品種改良しロシアへ輸出。直行便が開通すればと夢も膨らみます。

此処に紹介したい2つの教会があります。

1つは漢民族でイスラム教に帰依し2~3百年前から中国の支配を逃れ住み着いた、“ドンガン族”の人々により建てられた木造のモスク寺院です。

これまで中東やイランで見て来た石を素材に刻まれたイスラミックな文様とは違ふ、木に刻まれた漢族らしい精緻な木工の日本の寺院にも通じる文様です。



カラコル ドンガンモスク軒先



ドンガンモスク内陣

他方は、ロシアより植民しながら此の地を深く愛しここを墳墓と定めた三位一体系の聖堂です。此れも木造建築です。精緻ではありませんがトルコに三位一体系の小さなレンガの教会がありましたが、これと対比して、木造の穏やかな美しさを備えていました。

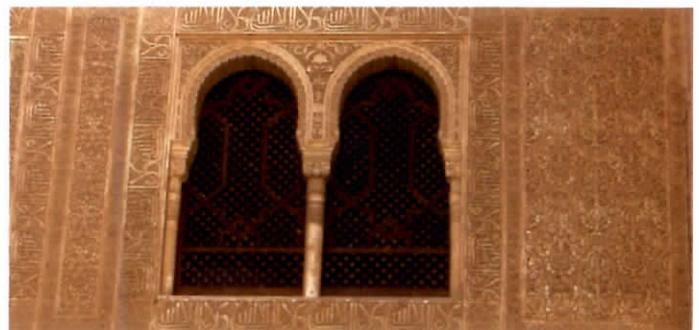


カラコル 木造の聖堂

(此の教会は写真撮影ができませんので、戸外からの写真です。インターネットで、キルギス・カラコル Holy Trinity Cathedralで検索してご覧ください。)



グラナダ アルハンブラ 内庭軒先



パティオの壁



トルコ 聖母教会